

「令和6年度国総研講演会」開催報告

企画部 企画課

1. はじめに

2024年12月12日（木）に東京都千代田区の一橋講堂において「令和6年度国総研講演会」を開催し、1,472名（会場222名、配信1,250名）が参加した。

本講演会は、国総研の活動を外部に紹介することを目的として国総研が発足した2001年より実施しており、コロナ禍（2021、2022年）においても動画配信形式により継続し、今回で24回目を迎えた。なお、2022年以降は、会場聴講に加えライブ配信を併用したハイブリッド形式で開催している。

2. 講演会の内容

講演会のテーマは、令和6年能登半島地震が発生したこと、阪神・淡路大震災の発生から30年を迎えること等を踏まえ、国総研における地震災害に対するこれまでの一連の取り組み等を紹介するものとして「地震災害への国総研のチャレンジ～阪神・淡路大震災30年、能登半島地震から見えた課題～」とした。

講演会本編では、講演とパネルディスカッションを行い、これまでの大規模地震災害からの教訓をレビューし、能登半島地震での被害状況や新たに得られた知見について紹介した。それを踏まえ、過去から受け継がれてきた経験を生かしていくこと、未来へ向けて経験をさらに積み重ねていくことの重要性について議論した。



写真 平田 直 東京大学名誉教授の特別講演

特別講演では、平田 直 東京大学名誉教授に登壇いただき（写真）、2024年に発生した能登半島地震、日向灘を震源とする地震の分析に加え、南海トラフ巨大地震と臨時情報について解説いただいた。さらに今後発生しうる巨大地震に備えるために、現在行われている対策をどのように変えていくべきかご講演いただいた。

3. 講演会を活性化させる取り組み

講演会場では、国総研の災害対応やDX関係の研究を紹介する「ポスター発表」と各講演・パネルディスカッションの登壇者に質問や意見交換が直接行える「コーヒープレイク交流会」を行った。

本講演会は、土木学会認定CPDプログラムとして登録しており、聴講者は、土木学会のCPD単位を取得できる。上記の会場プログラムは、会場聴講者のみが参加できるものであり、より多くの知見が得られる場を提供していることから、CPD取得単位数は、会場聴講者は6.0単位、配信聴講者は5.2単位としている。

今回実施した「ポスター発表」、「コーヒープレイク交流会」について、会場聴講者からは「会場に足を運ぶ理由の一つになる」といった声も聞かれ、好評であった。講演会をハイブリッド形式とした2022年以降、全体の聴講者数が大幅に増加する一方で会場聴講者数は減少傾向を示しているが、このような会場プログラムの拡充により聴講者が会場に足を運ぶモチベーションが向上し、会場聴講者数の増加につながることが期待される。

今後も国総研講演会がより活気のあるものとなるよう努めてまいりたい。

☞ 詳細情報はこちら

1) 令和6年度国総研講演会ホームページ
<https://www.nilim.go.jp/lab/bbg/koen2024.html>